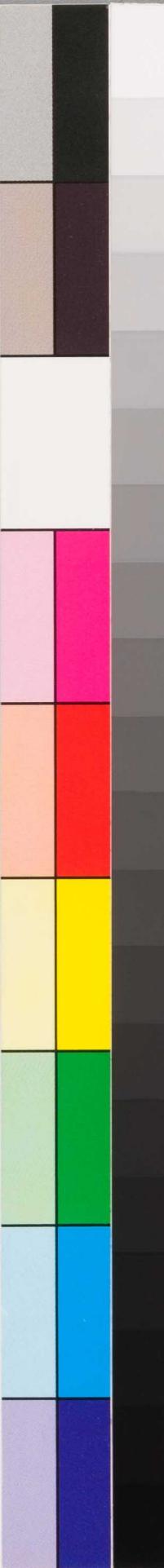


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

50



8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50



痘シラカバ少シナガタ口
丸マツコ大オガタ量リヤウ
鱗病スケノウ下老シキシナガタ
草不取シロハシタ

小兒必用良藥卷三

牛山翁

香月啓益

璣

一 小兒諸病之說 下

- 小兒の病大と小と形くとくハ吐乳より起ると保嬰偏よ
及くたり小兒氣とあまと事あらうぞ病ひきざひと
かねく、又く醫シラカバ療治シラカバしきたり、二陳湯よ加減
して用シテぐさすり、連翹シラカバ沙仁シラカバと加へて用シテぐさすりを
號シラカバは乳の在よ家シラカバ製虛實シラカバとソリび連翹シラカバ用
と紀シラカバハモシラカバ、秘シラカバモシラカバすりをり
○綠對微シラカバの況よ小兒の體シラカバは瘡シラカバとシラカバ病シラカバハ半宿シラカバ向シラカバ

一ノ我鳥内口中れど、此を胃中は齧毒よりと云
「と和信君はとりひえハ舌あとぎとつすり昆布と
墨梅みく細くゆてもひねよつけて舌の上に吊
をそけばその墨梅みつまく向きわざとれど金うる
アガー舌すもむとせあきば小兒病くほすとあ
難うとあくげ、ざせかづび治する事うて我
墨梅と治らる、黄連と細末とく密とまく付
れハ驗ぬ】我等に癒みて小兒氣と吐半あひが
又加減清胃散と用べ一 黄芩 黄連 升麻
石膏 連翹 辰砂 黃柏 生耳葉 各ホ 在泄あ
一てさゆうてあす一 玄蔴水 一

○生く子の後よよ脇腫 く舌乃トヌ肉出来ものあり
室舌と名付とこそうち和信君小舌とつよよく發ゆき
療治しへき事すと額の下乃ち中よ豪氣泉の穴とす
而わきよ西子矣ある事にてふ壯やどうれば小舌あどより
く愈すを室舌の事すと舌の瘡ス】當歸連
翹湯と角べ一 當歸尾 連翹 白芷 各ホ
大黃 茵草 各ホ 右のの歎れ太小にとりて服と
かげんへく冰ぞうりゆて薦ド一周也一 翠
○嬰童而向ニ木舌乃病ハ心脾の積翹化うすあすと
も癒舌腫く漸くよ脹大すと口渇よ満塞ナリ室
舌木舌苦子薦葉ハ翹湯速翹湯と角べ一 蒲黃の

末と香砂よりくく蜜みてときくおよわくへ又黃柏の粉と蜜みておゆるもとれり

○走馬瘧と口に瘻生く血と熱一ノ申臭く齒齦瘻生齒多く齒寒く脣瘻額子穴とすく走馬瘻生くとひみゆるふらと玉瘻又内瘻よつてから和緩齒くとひ又の元とノなうるよりくづぶくをとりよけ走馬瘻生れ半身ナレハかせロ申臭きよりあくと早く走馬瘻生れ半夏
白芷
白朮
白芍
葛根
黃連
生甘草
防風
軟石膏
右内藥調合一ノ

水藻一匁アシヤクス
枯礬名木細赤くえ米泔汁と湯よ拂し
口中をあくへは漱るをくけ粉茶と憲する所より
めぐら一匁驗りみやくをす
○錢仲陽の院よ醫脉の病に水火の元と手弱く神竈いすゞ定まらずかをあやしき形の物と云ひ或ハ腐き源氣のある器うどれ鳴聲と手のく心神と身のく躁ぎぬびらく眼とてんつわゆと勤ト搗搗ハ良とじくつと
一瘦沫と吐く至りて病の勢十度強薄搗搗と
するもと名瘻門と云ふ病のゆゑに起ると慢瘻風毛りすととてをかえの病ハ少しおれ成ゆる也よ

され食澤あくせきみてももへは覺おぼふ寝ねびるやうけ病びやうにま
ららわわとよく覺おぼることよりされ薦いん仰あつみよされ療り
瘡ううと冲断ちゆだんとく治ぢせば癒いみよりくもる七
日ひすじゆとからりて年齡ねんれいドくほい癰いん癰いんの布ふを
多廢人たはいじんとする者ものうりばゆのあれらまくけ病びやうと
第一の重病まごとあるほどなり

○身み風ふ吹ふくおどり眼まなことつまうふとよ竈とう火事ひごとて服ふく
とよのあらみけりあげたるをする所ところ牛うし黃こう心圓じんえん萬病まんびやう
解げ毒どく丹たん紫し金こん波は玉たま樞しゆ丹たんをどくえ素そススに奇き藥やく奇き藥やく奇き藥やく
丸まる斧のこ薙なぎ丸まる室むろ舟ふなすとくえの類るい龍りゆう腸ちよう麝しか香こう
どのをくへ葉はときららく水みずをぬきとものとくゆき

みちをあらうのけとそしたる湯ゆをとむを用もちべ
ゆくがくくしくえをとれり種退たぐくは薦いん葉はと菊きく
べきかくよよつと西にしの方ほうハ薦いん竹たけの薦いん子こ竹たけ東ひがし
或あるは茶ちゃ肆しみと財ざいい薦いん葉はす御食ごしょくとくわればれ
と本もとち畜くへとと用もちめしとあげとをすとくわらと
びぬけりてぬまニ陳湯ちんとうは方ほうあよまくニ子鈎藤鈎こくとう黄こう
連れんと加くわく用もちし

○急脾きくひと治はらるよ金東きんとう化疾丸かじやくわんとりよ各ごく方ほうあり
天麻てんま七しち南星なんせい半夏はんげ各ごく二に向附子むこうづいし全蝎ぜんかく各ごく一いち
硃砂しゆさ研がん石せき雄黄ゆうこう枳實きじつ各ごく一いち珍珠じゅしん參さん
麝しか香こう三さん槐角かいく七しち速はや鈎藤鈎こくとう各ごく三さん山楂さんぢやく五ご

右細末一升大約半升燒之色如米黃
白者三十粒核去皮中余巴豆
一粒つゝ三十粒去皮加水煮
麴酒同煮候入砂子研末和水
水浮之入砂子研末候入砂子
之中乃巴豆同煮候入肉同煮
候入砂子研末候入水同煮候入
丸子丸藥之量二分之一金箔
一百粒一丸重者二丸同年
用又生姜湯水同煮候入薄荷
生用毛同煮候入砂子研末候入

方ハ陳玄兩方と曰ふ
取もち傳へある名方より大般若の事法を
驗めにがられハせりたる人のならより々と云ふ
トナリム

○急難門ハ毛くハ太後と下りて利とゆす
備あ冉をとて云下り葉と角り半もあらず毛燒
よて毛に毛の靈め毛と下りし 南星 半夏
各四巴豆 壳を去り研末候て
半毛衣く 姜蚕 各八 全蝎 三枚 辰砂 三分
毛一 大黄 二枚 軟粉 五分

右細末一升水糊と毛を合ひ候て此毛と角り
感ハ客毛で毛りて毛の毛を合ひ候て此毛と角り

「小治年月記」
「万病回春」
より
薄荷を茶と金銀湯にて用ひとあり
かのちよしとけんは乃茶と生湯にて用ひとあり
かやまうすりを銀薄荷湯の事す。河澄の飛
よ金銀薄荷と即金錢薄荷也。今家園も
薄荷の葉圓しく小葉の其形を銀錢す。柳葉の
義なりとゆきらる薄荷の真湯にて用ひす。
アリとあぬ人へ生地とせんじをかけよ。用ひわ
利は既除。云角を立と多も疏よつまびくうち極く心
かへき事なり。

○急驚風飲みは御すよ。六君子湯 入参 白朮
白茯苓 陳皮 半夏 紫苏 取茎 桂枝 甘草 六散

子湯とよきとけ人參よハ朝鮮人參とへニ薑加べ
鈎餅鬚入參す。立雪りどかよベー半夏裏と之を
薑ド用ベー近來立雪の醫者りのひうやんす
事とへう半とセビシナセと付ら醫竹のあらう付
み事とつととりよるとセビシ病家より事とつと事と
あらじゆのくそりでセビシ病家より事とつと事と
み半ハあせよはゆふどりひく足きものハ事とつ
され来る事とつとの理とあらぬ左下をす。姜ハ味辛く
一ノ癸穀一儀ア茶毒と解。水毒と解。左下を
くハ生姜入りの茶とくを下に立と事ハ味辛くて
脾胃と補ひ百病と潤和する功能ありとくとい生姜

と寒氣と服氣のうちより風邪の事かア吉書
又入あつてうどまく風邪アヨシテアヤドモリヒカサ
ヒトヘキハモソクヒツキ半からりアツヒヨ用ヒ寒
ときゼミムキ葉若入高シノ御令の付シモビカツア
ヒタクナリヒ付の高象ヒヨ寒ヒト入ヨモヒツジカサ
キルヤヒヨサフ者アアツヅ門ヨアシブ者アラスビ
アハ農エヨウシ奴事カレハヒタル傷ヨホ部少ヒ
御薦拘ヒ直子トカツヒ聲筋ノ御理ノ奈ヨ用ヒコ
○慢筋筋乃志ヒ或ヒ名筋筋乃症危ヨ歎ヒシモリ
ヨ涼薰ヒ角ヒロアツハ下モ事多シカツヒ微酸
或ハ吐逆吐乳サマヒ池陳利病アツアツモヒ腰
或ハ吐逆吐乳サマヒ池陳利病アツアツモヒ腰

虚一或ハ風邪腸胃より之く大便少ビえビトア
ヨウモクアツビ慢筋筋ノ敷ビヒタモ其在日和盜汗
アツモク腕ニ事トメニ因渴四肢ヒツヒノ浮腫大皮脈筋
一或ハ口臭く走る牙痛ヒモウ目と徐々ハ癩病子
ヒツトアツモク汗少ヒモウモウモウモウモウモウモ
く泄痢モウモヒ治シガタアトモベー理中湯
カツヒト向木モアジ人參ニヒ取草モ參乾姜
右細ヒモクモ小もれ松毛モ敷ト服モアヒモ
ハ黃芪ヒモクモヒモ大便不穢ヒ禁石禁火氣之モ
モモモ山茱萸肉麻豆蔻ほ白芍芩桂ヒ加フベー虛
家アツモク泄痢ヒモクモヒモヒモヒモヒモヒモヒモ

湯と名付くこ益考肉桂栗米と加へて用ひもう
トと慢熟ハムタム化病もり敷ドあらきのうれ補
薑よりニ取引湯 人參 白朮 向茯苓 薑ホ
取草が併生姜蜜と加へて用ひし陳はと加へる
と異香穀と名付く古方す湯よ加減一と用ひ
云張氏の七味白朮穀と角イ。 菖根 李薑等一
人參 二石向木 二石向茯苓 二石木部 二石取草
石刻トくは色いろすよ薑トく用ひべー薑等と
去く除は砂仁とかへて用ひとれハを驗わフ
○慢熟風と治らうよ朴藥とりづらがあり 人參 薑等
向薑トく取草トくはもれずよ

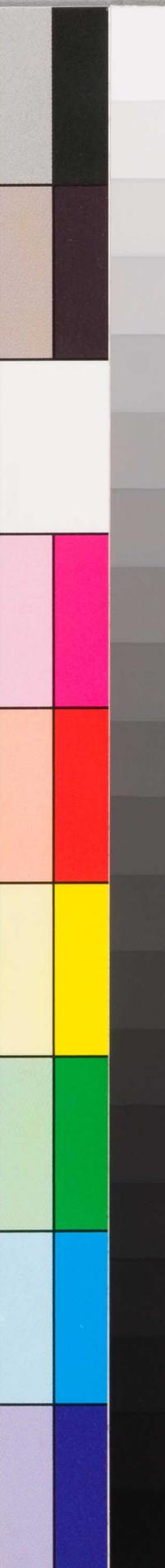
薑トと用ひ验神のびつゝと萬病回天よこら
け方らく驗あら方ら

○王隱君の後よ立痔ヒツシノ病と立痔ヒツシ
やも色もく黄りと形甚複く微らく腰大ら
初生より二十罪ヒツシと痔とりし二十罪ヒツシと病
療といふとまう 管蓋カバ揚ぶるよ瘻疾ヒツシと瘻ヒツシの分
わりとりどももくハ脾留ヒツシの病よ膚毛ヒツシと乳母ヒツシの
あくとく取肥ヒツシのわ弊ヒツシをとくとく乳母ヒツシの
碎ヒツシ令掌よ飽く小兒よとくとくゆうよとくとく死ヒツシ
脾留ヒツシよ耳ヒツシ一熱ヒツシとくとくて吐氣ヒツシとくとくとくとく死ヒツシ
きやとぬじの上あぐく死ヒツシとくとくとくとく死ヒツシ

御すすめ其まわとをもじつよよりく是文脾胃に繫
掌一濕熱と特ニヨリの湿熱よりく附中す
ありて犯虫と生びたりと瘧虫と瘧虫とりすり又
小兒吐乳ノ如キ也また或ハ泄泻ノ如キよざ或之
泻ノ如キやまた或ハ嘔嗽ノ如キらし或ハ嘔嗽ノ如キ
而まだ頭瘡ノ如キ愈じサれやとれ乃あぐ一犯
之如ヘ津液からき脾胃虚損ドく瘧疾とナシモ
ナシヘあがくきづれ附モ瘧因乃夜と水と附モ
眼ノ如キ色黄りとちくとも白と何ハ形瘦くと
の腹ひく脹大クテ跡のびく脹突ある者ハ無心
者もけ病やと氣よゑにうかえうかれ者ハ有リモ瘧疾

あくと虫と化一トトトと利とひる半も 本邦の
醫家より医家よりもみ癪乃の事よりはとて病を
わへ同よれ承りしの理也其事あへに貴の事と見る
より蛭蛇蟹蠍赤蝦蟆柳虫桑虫桓山虫山蟹桑蠍
内臓と用ふる薬子と用ふ利とひる事の又病の
害事すは慢謹矣とやどく織衣を織るとけけて害
りされハ麻ちと殺一あらびと被ると治よるなり方葉桑
の能す





驗とをちるも注夏病も癥とよひてひの病され
へどり

○み痺の症より用ひたる藥をぬぐわしをよきり
四味肥兒丸 黃連 薰夷仁 神曲 麦芽 名木 分
右細末一錢水糊是を丸トく用ひべ一每服二十九
そのか留ひ大ゆすドリく用ひ一酒は川棟子と加て
左味肥兒丸と名づけ共す瘧虫の症と治すらる
哉也

○加味肥兒丸 胡黃連 木香 檀榔 黃連
三棱 義木 青皮 陳皮 神曲 香附子
麦芽 蘆薈 史君子 右細末一錢をざる法事の

びくぬぬめ死ひ大ふとしきりくもよべきやうり瘧の
瘧疾身薦瘦脛腹脹大口へく瘧蟲泄氣より整
用く驗ふ一

○本邦の醫家より傳する所の保元圓と云め方あり
方中花よりある所の法の醫也と考る所のもの事也
キム保元圓の医家あればは方との名別たり
本邦より往古より名號れくる所をノカラ葉紫
の方の人の後より南敷人より傳するといふ事もく
を多き方より中より乾海参いわばの海参狼毒わらどを多き
のち方よりかのの瘧子より用く奇妙な驗ある事
アモモクニシキアリアリナビトモシテアリ

トがすこしくすわらば傳へて死事多
○かのよ癆積の症とて腰のうきりと塊あくも移
り室熱とせむる病あるを瘧うどほよまざりとり
或はれと虫瘻又にかたりのちど心経する所せるより津
膀胱と用くよ

柴胡 胡白 茯苓 猪苓 三棱 茅术 山楂子
澤泻 分 黄芩 白术 半夏 人參 各八 胡黃連
葛根 各一 右利口 生姜 大棗 甘草 加水煎服
取草 二錢 用
麻薑 麻蕕 附子 肉桂 甘草 甘草 甘草 附子
大黃 附子 附子 附子 附子 附子 附子 附子
芍藥 附子 附子 附子 附子 附子 附子 附子

○癆瘍の病とて漸勢とて一五心立心とい胸と表のそれ
表の足のうちだよ

立心と頬裂へて空汗空汗とは皮膚の半う人の皮りうる
肉子ゆる所よだ物のけとりゆる
候軒一形憔悴きわどいものあくとくハ淡せんげをあく
もく驚おどろきよよよれ醫いはれもく療疾りようぢもぐらひ
○痘うの虫ムカシよりく薦すすの毛けとく者う者う保まき室しつ
角くづくよ一或もろハ緩鑿かくぱく魚うおの腸はとおもせもりうく食く
銅どうアマゼキアマゼキノ和わセウセウ赤あか色いろの太お小こ肝はとおもくもき
○痘うの虫ムカシよりく或もろハ五ごと吟ぎひ或もろハ土つち墨すみと今いまの歌うた
ハ炭たん火ひと吟ぎひ歌うたの志しありよけれととる脇わき中の寒さむのと
ざりり保まき室しつと角くづくよくと繻がくがく又また陽胃ようゐ書かく脾ひ湯とう
と角くづくよ黄芩こうしん陳皮じんひ向本むかほ向葵むかひ冬葵とうご草くさ

○保嬰湯よかの涎と流はすと止りゆく。胆の弱
と憤りし赤く腫る者ありあれと解候のあとに此
く脾胃の氣弱きをうそと云ふら又巣のト一赤く
腫る者ありとも脾胃より肺氣も悪くして
ゆゑなりとあくべー。薑陳薑桔葛根と細辛。又之
の次又石菖蒲と高良玉子と白芍粉葛粉と
とをまとめてよー

○弦仲陽の経よ胎毒の症へ襲毒擧して癥と生む
るなりと云ふと熟いゆゑに御はあるゆゑと云ふて瘡や風
玉も一又之面すまむらこ其瘡あれ愈々と熱や風

トモのまゝ一あよわうりとあるとお宿よ
アモリテシキヨリスヘーリドモの膳代出くね
モ詠りつまごりてアラモト癒ヒリヨ和信ルト
モサヒトツムニ除蓮根エマハ切る口は仰るどんり得
マ本邦少く見醫師を家にすくセトヒトツメガ
アリナリカタヘシミ見ミタケラウルムヒトミカタ
ル半身アマラモアラシ虚脱するやむに下すアレ
ケ脂毒シラカと名もるよモ除勝湯と角づきらすと重傷
モモヤ突ヒ難ハラカヒシム根子脂毒シラカ氣カク一病内
きがく事あらご体下毛系と角カクヘシム
○主微ミツ筋肉總は少く丹毒タツ筋肉痛カツ胸背或ノ足

あることあるて腰こしくおとらざだらざも撫なで撫なでがまとも
を痛基いたまき一いっを撫なで毒どくありと云いふと腰こし筋すじあれとあくく
そそりひくつゝくよ色いろとゆ葱ねぎとらう烟たばこ一いっはせをひ
わらうけり又また小豆こまめ粉こと娘子清むすめきよよそ
と見みせ付つけよ一いっ津つ脇わき湯ゆと用もちよ一いっは病びやうあきら
あびよく驚おどろくよのの醫い師しよれく瘻うずら治さす一いっは病びやう
一いっ腰こしよせらへく脛あし脛あし強よ豐ゆよせらへく傷いたよぐらへくら
る者ものハ必死ひじきらるそり犀角さいかく消毒さくせう飲くと薦すす一いっ荆芥穗ききば
防風ぼうふう 黄芩こうしん 牛蒡子ごぼうし 各かく 犀角さいかく 茜草けいそう
宕たん 水煎すいせん 一いっ服はふ とよきちよと代だい用もちと
○少すくない蟄毒ちどくあらんやうと云いふ痺ひ辭ことほされの瘻うずらと生なままう事こと

身の形は仰てうけ病ゆくハ瘧也ろうてやうと又初生
の付す背と冷て或ひいまと尾骨のかゆぬらきよ
あくもりうとうりびりせば病と生じらうと
えうけ病れきげりあくじふく発よ上手の薬作
とれそ瘧也よぐ一治りうまほされど瘧瘧のせられ
ましやうくまきほね序輪者とせらうり 疫蓋すよ
よ止病と和緩せりとくと付くつらぐ一瘧
瘧うらんふるひ 肥穴丸瘧積瘧保全瘧瘧湯よ加
減一く用くそ効る 本邦のやくそ効く
は病ハ腎氣の不景と云く 大味・味の代薑丸と角る
人色あるとそもと一術とんをやくに熱によく脾胃

をぬくよや一地氣うどおれひむりに新とぬぬ老うだ

もと養が一能くつね「ま」りと

○鍼仲陽乃流は小兒の鶴膝の病ハ足脚弱く瘦く細
く弱乃膝よりはるどひ名体のちり是もまれつまく骨毛
よりれゆれ感ひは温よあくちくは在りをなづらむつと
立ちと小兒大人苦すけ病いと病の後もくへ病痛つ後
傷寒も熱病の後脚よつ行かふしき脚よくあくとけ
病のきびとゆくつて、疊化に上手の藥除よ遠く
瘡后とねじとゆくつて、疊化に上手の藥除よ遠く
瘡者よろあくとス防内湯と角くよ

人参 黄芪

當帰

川芎

熟地黃

白芍藥

各半

防風

卷治

牛膝

附子

名前
本草
書

右利とくすま妻事と加てて煎て脚とへし鶴膝
風よけ方と角ものハセ醫れつねよあるあるとけ方
かとも愈され張り窓の右足左足をどつて足
をどく角いそれより脚をとじて瘻人とすれ共とぎ
わざとと治とやし難わとあくわとと事と
坐立ちと坐立とは一法を據風日風とくすれよ
鶴何某とてる家あきゆに十累の門よ病痛と患
氣くほ脚膝弱くうけやとき半と年りと
もむら筋直をひぬと行安がごくとく
足細くからて鶴膝よつてるをおなほ葉が肥あた

滿醫よ治療と教え家がと乞うるがて防風
とさがとくされかとし愈す事とくよく左脚
よう難波よめくせよ鳴りる名めうちよ治と
さくす半わども治きわざそれよりと家方と
清りとしきとくハ右防風湯を除ハ体の地薑丸強が
賓の右脚を左脚九の外をよもがとあくつる醫
しやくはよゆつととをまとと組合へく用とつてよ
御くよ医弱くやうがくあくのとくや後ろ葉を
慈とそくらうそのは予が邦君東武よ邊付一
比すて四半ちゆうじゆ武よ脛筋くももよゆう筋
ワビ予もまた東武よまうきうえ襟突用の本半身

ちあるは深ると家とひやんと中津よつまをあつて承
よ候とてひよのむけゆゑもやに筆よちりされせハ
の筆ぞうれの筆がどよみて頸強く背骨ゆゑ
あまきよ鶴の足ひがくやせく宵八十七八の推の筋
を走らるやどくとく海よ生羅やれわと玉くも
れかうくとあわきうあひと仲毛すめの筆を
の筆と下よす右の筆とよすくわレグの
こ座一もくもくとよすくの筆ととりくを右へ引ひ
て左の筋よ毛やれねとよすく筆よおぐくいた
右へ引ひきくあひをめれるよ左おれはくさひ先
えまことる種やれぬ淮いじかんとよす中よす

やうゆかくを出又始はづくとトよをとよすな
くわうぐく移らきころやくよすかひがく
廢人きしん事とれひくすよびのく後とくべ
子豚と豚一形とくくは病治え一これ共一あひ
と段だんハ治えづびほ一あひと段くは次十五
年よかく精字にのりく後ひ勢ひ時よ勤うじ食
愈へ一そののる蒸と角ばづく枝くもきべーとし
方とあふ 人參 白朮 當帰 川芎 白芍藥
黃芪 薊地黃 山茱萸 山藥 白芍藥
角膠 慰板 薊附子 肉桂 苍朮子 海
桐皮 木朮 茄苡仁 牛膝 虎胫骨 穿山甲

防風卷十

17

烏頭 約藤鈎各八
分

右細きく朱糊こうのを丸一粒だらけ相引いざなひる
娘根むすめねの枝えだりのえ

いふを五十の年を経て暮れまゐるが、おもに
半半にしてゆくは不思ひやうのむちよむかす

トモウセミタハシミテ
トモウセミタハシミテ

うよ雲長一頬涙肩もて夜半ちやうの半身とぞ
くく書れんとすみふ二年のほ長門へゆ候と
くよ温泉よにもせ一モロヒシヨリ枝りりく
食人とりつらうりうけ茶やくひどきう病と云
うる半身虎脛骨穿山牢ろがさゞ下虎の臺

小兒言卷

○保嬰湯ヤシントウよりやひのくの
鰐門カジマ 鰐門カジマ いはれの主事の
おねいわせ
右方へひきこられて一筋ほろ下ハラシタ よ海シマ のまゝころも
と解カミ 顱カブト と名付是骨カツ と名づけ
りつけ付カツタフ て一 鰐門カジマ いはれの主事のうちからを
彼カミ 気カミ と呼ハスル てとててくらうおよた傳ハシマツル とあく

○小兒の遺尿ハ腎ノ元膀胱ノ氣共ニ虚弱也左
也と塗云爾乃經よりてより骨の筋虛怠也一膀胱
夙冷乃末より時へ必遺尿もあれと尿床と云ふ
と至陽火旺よりて一二年之行入等



りて送承すりあり。毎くと付くものなり。と
合ひしゆくつぐく小段とリヤビダレのと
ちゆよあらひの時くとつぐるものたり。のと
をひゆへ一二事の付りキムセキルセ事も
も床とケヅヒモのあり。み為す。うる。送承。うり
ものあり。 雞腸散と角うち。よ。う。う。う。
雞腸けいじょう 雞の腸けいのう トウ
桑螵蛸さんぱきゅう わねのうの
龍骨りゆうこつ か
白茯苓びやくれい けい
肉桂にくけい けい

の至患の後より生のやせ腰痛偏頭とてうり者
あり痛きとてくらむとあつて食事も多から
とうこうちと何もよくゆきずるより腰痛とて
○王源公の後子少ひ歩行とて半身不随と
半身不隨ハ若よ氣血乃と之とくらむが如きと
おうち床内より膝あら茎筋に五加はとせぐく
用くよ。

○正月の行手中更張すとまくらの手弱いを
とまくら 葛蒲丸すとまく
川芎 麻酸 乳香 碎砂 石菖蒲 人參
右細末一又半茶匙の入よ内ドスナモつてあるを用

○五箇の後子の歯の齒のもの半邊ハ腫れで實くちり
もうう丹溪のち薦敷すもう 熱敷也薦川草
當散 向苦 茵草 金二溪 右ゆましく歎
牙よりわづべーまた食のう湯もとが汗で眼
しきりがつまらる

○火災傷耳の症とて耳より膿と出く痛甚
さきの内を火傷耳されとては症にあくハ肝腎乃
き作るよりくすり薦敷者此氣敷と角く
並より付糸とてゆる要るものせられを兼ねく良
きのうす立傷みとて癒すて相麻のゆきとまそ
耳の内に入らざる

○五箇の後子の歯の歯は火蒸十數といふ半あり其
う二年うるよ一數とて齧ぐ由く氣とあゆ 五夜
起く火づきかとやれびと一數一數すあひど
に火見毛目と詠一やううすむ考驗けく實を言
ひのあくと二年うるよ半とせんと立石ナニうう
齧齧の本とりうくおとひよく實をうらうと云
てと和緩されと齧齧とつあるがつよニキニテ
よへせうじかの本ハ葉と用ひよなりに生きつゝ齧
んとあひ齧齧のきじ わが外ふくらひ又
小火すうりくそのわくへ必齧け 出くがくまち
むくづれを一あらふれと齧齧のをも覺ゆ

てうきゆく日と寝て色はすを覺えより一そ
頬へき肉へ筋と肉へ皮へ廢液もがきに重ひと
○小兒の熱病大ぐよ熱る事かゝ上より下氣病を
えらゆるよがさりたるぞうとあげてあるひうちえん
と筋筋の病へそんくれ醫あらあ門とて入らる
瘡瘍もどきやうれ癰その内ふ穴を用てわから葉
をだつまくまくおもとくうぢり

○小ゆの風とひそむるよし惺惺散ふうく
白木自茯苓 桔梗 拯囊根 細辛 薄荷 各ホ
草芽 步惊 右冰芩 服之一 咽痛因乾氣
八葛根とくじく熱裏 三物の葛根と以て瘧疾の序病

トモテスケタリゲザミキ何ハ速
泡瀬吐乳うどわくじ半夏
桔梗根と慈ベ一小兒の風邪れやうじぞうき

○水火熟ありて風を含停及之令ぐに此時加減
四毛物より一 蔡杏 白木 厚朴 陳皮 白芍
葛根 大腹皮 桔梗 白芷 香木 其茶水汗 黃芩
厚一剂とて生姜と加々水煎 治之 吐衄
者若嘔吐止らまの止へ白芷と去て砂仁とあへよ
○水火脾胃の氣より泄渴と初一服止く或ひ止む
もの吐氣とし一 鮑色薑之額より手筋と引ひ口脣

○小兒鐵氏の七味向本散と角くよ。葦薑粉と云ふ。
陳は仰化白扁豆と加へて用ひがよ。此より
○小兒泄風散と角く。股痛癆病とあらんと云ひよ。東延
川参湯と角く。生黃芩、青礞、肉桂、猪苓、
澤液、白芍、芍藥、白朮、杏仁、甘草、紫柏、
其草、白朮、右制とて生姜蜜を加へさせり。
更に一を効能の如く。

○小兒肥膚虛弱とて股りりやしく脇の痛とな
く。參芩散と角く。瘦きのよし參芩向本散と角くよ。
人參、白朮、白芍、山茱萸、白扁豆、蓮鬱核、搜
破仁、葛根、仁、桑白朮中、右制とて生姜蜜
と加へて用ひ。指の下りによくハ葛根、仁とをすて用
べし後の一とみわく。私都がゆかく用ひ。粉葉す
く。宮の下り湯と用ひよ。

○小兒發熱時多汗出とて強びとせきと風邪
どくよそ弊がら。知く、咳嗽をどきよ。六君子散
は前方すよまくに。羌活乾姜と加へて用ひ。あくよ。此
○散とみろ。後よゆるのあいすぐく。脾胃よあく。う
らぐ。脾の俞。十二の椎と。室へく。と云ふ。和信
ハ善秋よゆく。ば弊する事多く。身桂。腰ちよ
えの椎と十二の椎とすらめく。寒きよ。なり
も候す。うらぐひとよ。男の丸と。土行。女
の丸と。太陰

年老の後近きより病ありゆゑはうすに腰を
ベキナリかのうアガハ雀の巣をどけくだ
より二十忙までこそやせきりと豫真んじるま
るをうちかひの高茶を取てもあらわに鑑をくわき
とぬハカラクレチカアリ而の身を免る事無
れ醫師はお医りてくよれ定をきびてく身を
き事無くち抵無病なりゆゑ二月八月ま
らば身輕より愈ハ身もども病氣をまじせ
形總ての事も

